

配信大学：大阪医科薬科大学 薬学部

科目名	生薬学
英語名	Pharmacognosy
年次・期間	1年次・後期
選必区分	大阪医科薬科大学薬学部（必修）・関西大学（選択）
単 位	大阪医科薬科大学薬学部 1・関西大学 1
指導教員	芝野 真喜雄

授業の概要	生薬は人類が自然の恵みを利用して作りあげてきた薬物であり、各国の伝統医療や民間療法に使用されている。一方、我が国の現代医療では、様々な疾病治療に漢方薬（伝統医療）が取り入れられており、それらの漢方薬を構成している生薬の知識がより一層必要になってきている。この授業では、各生薬の実物や、基原植物のスライド（写真等）を用いて、日本薬局方に収載されている代表的な生薬について解説する。さらに、薬用植物園での観察会を実施し、重要生薬の基原植物や薬用部位、有毒植物について実物を観察することで理解を深める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本授業では、日本薬局方収載の生薬を中心に、その基原、性状、含有成分、品質評価、生産と流通、歴史的背景についての基本的知識を修得する。さらに、臨床で使用される漢方薬について理解するために、漢方生薬の経験的薬能や副作用についての知識を修得する。
授業の方法	教科書を用いての講義形式で授業（対面形式）を行う。また、観察会（野外学習）を取り入れる。
アクティブ・ラーニングの取組	民間薬などについて薬用植物園などで調査し、課題レポートを作成する。さらに、見学会では、授業で取り上げた生薬について各自で課題を決め、観察レポートを作成する。詳細な課題例については、授業内で説明する。
成績評価	大阪医科薬科大学薬学部：定期試験結果（70％）、課題レポート（20％）、観察会で提出したレポート（10％）により評価する。なお、本科目の定期試験の出題内容には「薬学連携演習3」で学習する事項も含まれる。 関西大学：6回以上の授業出席者に対して、最終レポート（50％）、出席状況（50％）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	試験答案を開示し、再試験受験対象者には解説を行う。（各レポートの採点結果も開示する。）
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／12.つくる責任 つかう責任／15.陸の豊かさを守ろう
教科書（書名・著者・出版社）	『ミニマムファクター漢方生薬学（第3版）』・芝野真喜雄・京都廣川書店
参考書（書名・著者・出版社）	『生薬単一改訂第3版』伊藤美千穂・北山隆監修／原島広至著・丸善雄松堂 『実践漢方生薬学 第2版』小池一男・川添和義著・京都廣川書店

授業計画			
回数	項 目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	総論 民間薬（センブリ、ドクダミ、ゲンノショウコ） 医薬品原料生薬 （アヘン、ロートコンなど） 漢方生薬の性質 修治	日本の民間薬や漢方薬に使用される生薬の性質、修治方法、薬用部位などについて解説する。	予習：教科書生薬編の総論を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、課外学習の観察会や薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（1時間）
2	各論 カンゾウ、ニンジン、コウジン	補気薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。さらに、修治について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、課外学習の観察会や薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（1時間）
3	各論 オウギ、タイソウ、ダイオウ（センナ）、マオウ、ケイヒ、ショウキョウ、カクコン	補気薬、瀉下薬、解表薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、課外学習の観察会や薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（1時間）
4	各論 オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ	清熱薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、課外学習の観察会や薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（1時間）
5	各論 ブシ、カンキョウ、ウイキョウ、ゴシュユ、サンショウ	温裏薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説および課外学習でのノートを読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（1時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（2時間）
6	各論 シャクヤク、トウキ、ジオウ、ボタンビ、トウニン（キョウニン）、センキウ	補血薬および駆瘀血薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説および課外学習でのノートを読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（1時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（2時間）

配信大学：大阪医科薬科大学 薬学部

7	各論 チンピ、キジツ、コウボク、サイコ、ブクリョウ、チョレイ、タクシャ、バクモンドウ	理気薬および利水薬、滋陰薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説および課外学習でのノートを読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（1時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（2時間）
8	各論 ビャクジュツ、ソウジュツ、ハンゲ、キキョウ、ゴミシ、キョウニン、オンジ	利水薬、化痰薬、排膿薬、止咳平喘薬、収れん薬、安神薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説および課外学習でのノートを読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（1時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（2時間）
9	観察会	武田薬品工業（株）・京都薬用植物園の協力のもと、授業で学ぶ生薬の原植物を中心に、有毒植物などを含めて小グループ（15人ぐらいで1グループ）で解説者と共に観察する。さらに、代表的な薬用植物の外部形態の特徴についても理解を深める（根と根茎、葉と小葉の確認など）。	観察会までに学んだ生薬をもう一度復習し、観察会に臨むために2時間ぐらいの復習が必要である。また、見学した薬用植物より5種類の植物について、スタッフからの解説内容に関連する主成分や活性成分などの調査、それらが配合される漢方薬、日本薬局方での記載内容などについてまとめ、レポートを作成するために2時間以上は必要である。